

第 54 回・H 29 年 1 月 18 日の歴史探訪の会

1 月度 “生駒谷・往馬大社初詣&歴史ウォーク”

案内人 生駒市観光ボランティアガイドの会 渡邊副会長他 4 名 世話人 田原誠也（作成）

コース

近鉄生駒線 菜畑駅(受付・スタート)～往馬大社・お詣り・本殿&観音堂見学～竹林寺古墳・竹林寺本堂
開扉・行基菩薩墓・忍性菩薩墓～円福寺本堂開帳～青山台集会所(昼食休憩)～興山墓地・往生院～美
努岡萬墓～菊司酒造・試飲・買い物(解散)～南生駒駅 歩程約 7 km 参加者は 18 名でした。

暫く寒い冬日が続いた後の暖かい、まるで春の様な日差しに包まれ、風も無く絶好のハイキング日和。

最後の菊司酒造前で到着順に 2 班に別れて集合写真を撮影、菊司酒造様で試飲・歓談・買い物を楽しみ、
内海様から次月のご案内をして解散となりました。ご参加の皆様、有難う御座いました。お疲れ様でした。



足取りも軽やかに・・・



途中の溜池は凍っていたが暖かい日差しに梅の花もほころんで・・・



以下はコース見所

往馬大社(生馬大社)・火神祭・・・ 風神祭(龍田大社)、水神祭(廣瀬大社)



観音堂見学



往馬坐伊古麻都比古神社(いこまにいますいこまつひこじんじゃ)は、式内社で、旧社格は県社。

往馬大社(いこまたいしゃ)とも称し、生駒神社(いこまじんじゃ)と通称される。生駒山の神である伊古麻都比古神・伊古麻都比賣神(いこまつひめのかみ)、および氣長足比賣命おきながたらしひめのみこと(神功皇后じんぐうこうごう)・足仲津比古命たらしなかつひこのみこと(仲哀天皇)・譽田別命(応神天皇)・葛城高麗姫命かつらぎたかめかひめのみこと(神功皇后の母)・息長宿禰王おきながすくねおうのみこと(神功皇后の父)を祀る。伊古麻都比古神・伊古麻都比賣神は古代より火を司る神として信仰されている。大嘗祭で用いられる淨火を起こす道具である火燧木(ひきりぎ)は代々当社が献上する事となっており、今上天皇の大嘗祭(だいじょうさい)においても当社の火燧木が使用された。10月第2日曜日(元は10月10日)の例祭は「火神祭」と呼ばれ、龍田大社の風神祭、廣瀬大社の水神祭とともに古来より朝廷の崇敬(すうけい)を受けてきた。創建の年代は不詳であるが、古代、当地に住みついた人々が生駒山を神体山として祀ったのを起源とするものとみられる。文献での最も古い記述は、『総国(ふさのくに)風土記』の雄略天皇3年(458年)条に「伊古麻都比古神社」とあるものである。延喜式神名帳では大和国平群郡「往馬坐伊古麻都比古神社二座」と記載され、大社に列し、月次(つきなみ)・新嘗(にいなめ)の奉幣(ほうへい)に預ると記されている。鎌倉時代に八幡信仰が盛んになると、当社に八幡神にかかわる5柱の神が合祀された。

竹林寺古墳(ちくりんじこふん)・・・生駒市唯一の古墳



生駒市有里町に所在する古墳時代前期の前方後円墳である。竜田川上流域(生駒谷)における唯一の前方後円墳で、周辺には他に主だった古墳も存在していないことから、この地域の首長墓であったと目される。行基や忍性の墓所で知られる文殊山竹林寺境内にある小規模な前方後円墳である。築造年代は出土した円筒埴輪の特徴から、古墳時代前期後半の4世紀中頃と比定される。前方部先端と後円部の一部が失われ、後円部は墳頂に通じる小道が通り、掘削(くっさく)による損傷が生じている。その他の部分は雑木林に覆われ、開墾による削平(さくへい)を受けておらず、原型を比較的良好に留める。

竹林寺(ちくりんじ) 夏の竹林寺



冬の竹林寺・・・蓮鉢には分厚い氷が張っていました。本堂の中に入りましたが撮影禁止でしたので・・・



生駒市有里町にある律宗の寺院。奈良時代の僧・行基の墓があることで知られる。山号は生馬山。本尊は文殊菩薩騎獅像。竹林寺は生駒山の東麓の山中に位置する。奈良時代に架橋、治水などの社会事業に奔走し、東大寺大仏の造立にも力のあった僧・行基の墓所がある寺である。行基が壮年期に営んだ小庵が後に寺院とされたものと思われる。行基は文殊菩薩の化身と信じられており、寺号は文殊菩薩の聖地である中国の五台山大聖竹林寺にちなむ。明治時代以降は廃寺同然となり、本山の唐招提寺が管理していたが、20世紀末から境内の整備が進められている。

行基菩薩墓(竹林寺)



河内国大鳥郡に生まれる。682 年に 15 歳で出家し、飛鳥寺(官大寺)で法相崇などの教学を学び、集団を形成して畿内を中心に貧民救済・治水・架橋などの社会事業に活動した。704 年に生家を家原寺としてそこに居住した。その師とされる道昭は、入唐して玄奘の教えを受けたことで有名である。

行基は奈良時代、貴族の為のものとなっていた仏教を民衆に広め、橋や溜池を作るなど民衆の為に社会事業を行ったとされている。その行基がこの近くに一時期居を構え、母親の最期をみとったそうだ。その後、聖武天皇より大仏建立の為に招聘(しょうへい)されるが、82 歳で人生を終えると母親の近くに眠りたいと、この地に埋葬されたという。行基(ぎょうき／ぎょうぎ)668 年～749 年は、奈良時代の日本の僧。僧侶を国家機関と朝廷が定めそれ以外の直接の民衆への仏教の布教活動を禁じた時代に、禁を破り畿内を中心に民衆や豪族など階層を問わず広く仏法の教えを説き人々より篤く崇敬された。また、道場や寺院を多く建立しただけでなく、溜池 15 窪、溝と堀 9 筋、架橋 6 所、困窮者のための布施屋 9 所等の設立など数々の社会事業を各地で成し遂げた。朝廷からは度々弾圧や禁圧されたが、民衆の圧倒的な支持を得てその力を結集して逆境を跳ね返した。その後、大僧正(最高位である大僧正の位は行基が日本で最初)として聖武天皇により奈良の大仏造立の実質上の責任者として招聘(しょうへい)された。この功績により東大寺の「四聖」の一人に数えられている。

※東大寺では 大仏創建に力のあった良弁、聖武天皇、行基、菩提僊那を「四聖(ししょう)」と呼んでいる。

忍性菩薩墓(竹林寺)



良観房忍性は、建保5年(1216)に大和国城下郡屏風里(現在の奈良県磯城郡三宅町)で生まれた。早くに亡くした母の願いを受けて僧侶となり、西大寺の叡尊を師として、真言密教や戒律受持の教えを授かり、貧者や病人の救済にも身命を惜しまぬ努力をしました。特にハンセン病患者を毎日背負って町に通った忍性の人柄がうかがえます。後半生は活動の拠点を鎌倉に移し、より大規模に戒律復興や社会事業を展開します。

忍性は行基の大ファン? 16歳の忍性は額安寺(奈良県大和郡山市)に入った。忍性は19歳から6年間毎月竹林寺に参詣したという。参詣を始めた年に竹林寺で行基の舍利が発見された。行基は奈良時代の僧で、貧民救済や土木事業などの社会事業を行い、大仏建立にも尽力したことが知られ、平安時代以降に文殊菩薩の化身とされた。忍性が竹林寺へ6年間参詣し、その生涯を文殊信仰に基づく救済に捧げたのは、行基を範とするところと云われる。忍性は、鎌倉・極楽寺で 87 歳で臨終を迎えた。遺言により遺骨は三分され、額安寺、竹林寺、極楽寺に埋葬された。人々の救済に努めた忍性に、後醍醐天皇は「菩薩」号を追贈した。

忍性菩薩

平成29年(2017)は忍性の生誕800年にあたります。奈良生まれの名僧の熱い人生とその偉業を学びます。

慈悲に過ぎたひと

僧侶となり、前半生を奈良、後半生を関東の寺々で過ごし、87年の生涯をひたすら人のために尽くした。西大寺の叡尊は、弟子ある忍性を「慈悲に過ぎた」者と評し、その慈悲ゆえに「利生」(人助け)でこれに勝るものはいないとも褒めている。(興正菩薩こうしょうぼさつ御教誡聴聞集ごきょうかいちょうもんしゅう)

額安寺時代

母の願いを受けて僧侶となった忍性は、亡くなった母の菩提を弔うために各地で文殊菩薩の供養を行い、毎月25日には不断の文殊念仏を唱えたという。『金剛仏子叡尊感身学正記』。經典によれば、文殊菩薩は貧病者の姿で修行者の前に現れるという。忍性が貧窮者の救済に尽くしたのは、文殊菩薩に向かう道だったのである。

16歳の忍性は額安寺(奈良県大和郡山市)に入った。19歳の夏、竹林寺(奈良県生駒市)で行基の舍利瓶(しゃりへい)が発見された。行基は奈良時代の僧侶。民衆に愛され文殊菩薩の化身と呼ばれた人物である。

忍性は19歳から6年間毎月竹林寺に参詣したという。参詣を始めた年に竹林寺では行基の舍利が発見された。

行基は奈良時代の僧で、貧民救済や土木事業などの社会事業を行い、大仏建立にも尽力したことが知られ、平安時代以降に文殊菩薩の化身とされた。忍性が竹林寺へ6年間参詣し、その生涯を文殊信仰に基づく救済に捧げたのは、行基を範とするところが大きかった。

西大寺時代

23歳の忍性は、西大寺の中興開山 叡尊と出会う。叡尊は忍性に西大寺に入り律宗の僧侶として活躍することを勧める。律宗は仏教の原点である釈迦とその教え「戒律」を遵守する宗派。西大寺真言密教の要素を取り入れた活動を展開。忍性はここにおいて仏法の学を深め、新たに「興法利生」(仏法を興隆し、人々のために尽くす)の理想を掲げ、波乱の後半生へと進む。

鎌倉～極楽寺時代

45歳、鎌倉幕府との縁を持って拠点を鎌倉に移す。51歳で極楽寺(神奈川県鎌倉市)に入り、後々百を超える堂塔を擁した大伽藍に発展させた。同寺の本尊釈迦如来立像と十大弟子立像は忍性発願の彫像である。また、戒律を日本にもたらした鑑真和上の生涯を描いた東征伝絵巻は、和上への思慕と戒律を尊ぶ忍性の心根を伝えるものである。

極楽寺時代

55歳にして発した「忍性菩薩十種大願」には、病気や貧困にあえぐ人のみならず、道端に捨てられた牛馬にまで慈悲を注ぐことが誓われている。

極楽寺&東大寺時代

晩年の忍性は寺院の復興事業にも邁進する。76歳で奈良に一時帰還した。忍性は朝廷より東大寺の大勧進に任命され、蒙袭来襲においては異国退散の祈祷を命じられる。鎌倉に戻り、身命を賭した雨乞い祈祷を成功させた後、静かに臨終を迎えた。遺言により遺骨は三分され、額安寺、竹林寺、極楽寺に埋葬された。人助けに奔走した忍性の人徳を偲び、後醍醐天皇は菩薩号を追贈している。菩薩を求め菩薩になった87歳の生涯であった。

円福寺(えんぷくじ)・・・本堂を開帳して見せて貰いましたが中は撮影禁止でしたので



真言律宗の寺院。生駒谷を見下ろす山腹に位置する。山号は龍華山(りゅうげさん)。

寺伝では天平勝宝年間(749 年～757 年)に行基によって創建されたとされるが、沿革は明らかではない。度重なる火災のため、境内には鎌倉時代の再建による本堂のみが残る。

重要文化財

本堂(附:棟札 1、旧来迎壁額縁 1、旧床板 1、旧野地板断片 1、旧鬼瓦 2、旧丸瓦 2) - 入母屋造、本瓦葺き、和様の三間堂。来迎壁(仏壇背後の壁)の墨書から応安 4 年(1371 年)の建立とみられる。

宝篋印塔(ほうきょういんとう)2 基 - 本堂前に並んで建つ。北側の塔(写真左)は初重に四仏の種子を刻み、永仁元年(1293 年)の銘がある。南側の塔は初重に四仏の像を刻み、北側の塔と同じ頃の造立と推定される。

青山台集会所で昼食休憩

暖房の効いた和室でくつろいで昼食、トイレ休憩後に奥山墓地・往生院へ向かう

興山墓地 往生院 ……県内最古の宝篋印塔は正元元年(1259)・本堂裏の五輪塔「行基供養塔」

往生院(おうじょういん)



興山古墓群の中にあり、奈良時代の僧行基[ぎょうき]が天平 21 年(749)に没したとき火葬された生駒山の東陵にあたりと伝えられています。本尊は行基菩薩坐像で、境内には宝篋印塔(重要文化財)などが残っています

竹林寺の奥の院と云われます。(華厳宗) 興山「往生院」です。行基の遺言により彼の遺体を焼き遺骨の一部を葬ったのがこの地であったと伝えられます。中世以降、生駒谷 10 郷の惣墓となっています。本堂裏にある五輪塔「行基供養塔」は南北朝時代のもので高さ 187cm。境内にある宝篋印塔は正元元年(1259)銘があり**県内最古**として知られます。

大仏造営中の 749 年、喜光寺(菅原寺)で 81 歳で入滅、生馬市の往生院で火葬後竹林寺に遺骨が納められ多宝塔を立て墓所とした。また、喜光寺(菅原寺)から往生院までの道のりを行基の弟子が彼の輿をかついで運搬したことから、往生院周辺の墓地地帯は別名、興山と呼ばれるようになった。

美努岡萬墓(みののおかまろ)……丘の上迄全員が登って来られました



丘の上からの景色も最高！



奈良県指定史跡。奈良時代の官人であった美努岡萬の墳墓です。1872(明治 5)年に土取り中に偶然、墓誌が発見さ

した。墓誌は長方形の銅板で銘文を陰刻してあります。銘文から美努岡萬のものであることが明らかとなりました。現在は住宅地の中ですが、かつては山林の中にありました。古代の人物の墓所が明らかとなる例は県内でも少なく貴重なものです。

菊司酒造株式会社・・・創業 300 有余年。自然と伝統が織りなすこの一献



美味しい！試飲のひと時・・・



くらがり峠越え奈良街道の宿場小瀬の地で1705年(宝永2年)の創業以来、受け継がれてきた酒屋藤兵衛の酒造りの技が伝統の地酒「菊司(きくつかさ)」を醸し出しました。選びぬかれた酒造好適米、生駒山系の天然水、酵母を育む澄んだ空気が三昧一体となって、自然でまろやかな味わいが生まれています。平成10年より発売銘柄「往馬(いこま)」は特定名称酒の限定流通商品です。

うり、胡瓜、スイカの奈良漬け試食、お酒の試飲は種類が多くて数えきれない程、おかげさまで酔いが回りました。大吟醸の酒粕販売中、私が購入して完売、飲めない私は3種の奈良漬けと酒粕をお土産に購入しました。

生駒市観光協会＆生駒市観光ボランティアガイドの会の皆さん、菊司酒造のおかみさん、有難う御座いました。

次回のお知らせ

今回は、3月15日(水)早春の飛鳥路散策と高取町雛祭りを楽しみましょう・・・オープン開催
高松塚古墳壁画館～檜隈寺(ひのくまてら)～キトラ古墳・キトラ四神の館～高取町雛祭りへ
雨天決行、オープン参加です、ご家族、知人友人お誘いの上ご参加をお願いします。